

コロナ対策塾始動。

～ピンチをチャンスに変えろ～

**コロナ・人工知能・ロボットで将来を台無し
にされたくない人のための新時代教育**

著者 牛山 恭範

このレポートは、ウィキペディア「アンネの日記」(映画)

より、以下のようなアンネの日記の概要からご紹介します。

-----ここから-----

ストーリー

第二次世界大戦下のオランダ・アムステルダム。そこに暮らすユダヤ系の人々は、いつくるともしれぬ“反ユダヤ政策（ユダヤ人狩り）”の恐怖に脅えていた。そんな家族の一つ、フランク家の 13 歳の少女アンネの家族にも、ある日“呼び出し”がかかった。

その日のくることを予想していたアンネの父オットー・フランクは、あらかじめ用意してあった“隠れ家”へ家族を伴って移り住む。そこはとある事務所の屋根裏部屋。人目のある昼間は息を殺して過ごすような辛い生活の中でも、アンネは両親からもらった日記に希望を書き綴ることによ

って、その明るさを失わずに過ごしていたのだった。

-----ここまで-----

アンネは残念ながら、天寿をまっとうすることはできませんでした。しかし、最後まで立派に生きました。彼女は、
極限状態においても、常に希望を失わず、外国語の勉強や、
恋愛にと、人生を前向きに生きたのです。

2020 年新型コロナウイルスの感染者拡大により、世界
規模の不況が起きつつあります。コロナウィルスの特徴は、
感染力の強さと、致死率の高さです。感染力が高いだけの
感染症や、致死率が高いだけ（だけと言っても大変なこと

ですが) の感染症は今までもありました。ところが、感染力が異常に高く、致死率が高い感染症は、人類の歴史上類を見ません。80 才以上の高齢者の致死率は 20%を超えるというデータもあります。また、基礎疾患を持っている人の致死率は約 10%弱とも言われています。

このコロナウィルスの一連の騒動が、一体何を意味しているのか、まだピンときていない人は多いかもしれません。感染力が高く、致死率が高いということは、私たち人類の社会的な活動を大きく阻害する力を有するということでもあります。つまり、従来のように、自由に外に出て、集まる、あるいは、移動するという単純なことが、根本的に

できない、あるいは、愚かな行為になり得るということです。

コロナウィルスの感染力を単純な数理モデルに落とし込むことを試みるならば、何人かの学者が提唱しているようなものとなるでしょう。

すなわち、ウィルスへの露出回数や、ウィルスに露出する人の数などをかけあわせた結果が、ウィルスの拡大確率につながるというものです。この単純ないくつかの数式を私たちの社会に当てはめた時、単にウィルスに感染した人の数が減ったから大丈夫というような性質のものではな

い可能性があることに気づきます。

このコロナウィルスや、今後新しい生物兵器として人類の目の前に現れるかもしれないウィルスは、私たちの従来の方法では、まったく太刀打ちできない感染力を持っている可能性があるということです。十分な対策ができなければ、ほとんどすべての国が、武漢やイタリアのようになってしまうでしょう。

ウィルスの拡大→自粛・外出しない→不況→社会不安の拡大→経済の停滞→お金が社会に循環しなくなる→金融システムの崩壊→社会政策の実施

このように、単なるウィルスの拡大が、様々な社会の機能不全をもたらし、最終的には、社会の様々なインフラが崩壊する危険性もゼロではありません。

つまり、私たちは歴史の大きな転換期を目の当たりにしていると言っても過言ではないと私は考えます。インターネット以前、以後や、産業革命以前、以後、言い換えれば、戦前と戦後ほどの大きな社会的変革期に現代社会がさしかかっていると表現してもいいでしょう。

私たちは激動の社会の中に身を置いています。世界的に有名なある投資家は、世界の金融資本主義の終わりが始まりかけていると述べています。中国の武漢では、財産税のような法律が施行され、中国軍が集まり、資産の強制徴収が行われました。日本では戦後財産税が実行され、国民の資産はほとんど国家のものとなりました。そのときと同じようなことが世界で始まり書けています。加えて、現代社会は、人工知能やロボットが人の職業を奪っています。典型的なのは、ウェイターの消滅です。テーブルの上には、タブレットが置かれ、消費者は注文ができるようになりました。ただ、コロナウィルスの拡大により、外食産業が従来のサービスの形を維持できるかどうかは、分からなくな

ってきました。

このように、大きく人類が築いた社会システムや社会インフラが、ウィルスの影響等により、崩壊する可能性がある状況が起こっています。今回のウィルスの騒動は、一過性のものではなく、継続的に何年も起こり続ける可能性があります。

このような社会にあって、私たちはどのように生きていくべきなのでしょう。世の中にその答えはありません。現状では様々な価値観や目的から、雑多な意見が述べられています。経済がストップするので、極端な自粛ムードは

だめだという意見、感染力と致死率の高さから、大胆な政策を実施すべしという意見、とにかく外出を控えるようにという意見、この機会にいろいろと経験すればよいという意見などが飛び交っています。

混乱は続いており、統一的な価値観が生まれているわけでもありません。この混乱は数年間続く可能性もあります。

ウィルス感染者数の拡大が懸念される状況の中で、今は台風が通り過ぎるのをじっと待つだけ・・・このように考えたい人もいるかもしれませんが、ここまでにご説明した通り、そのような対処方法は、今回のケースでは非力かも

しれません。

また、単に難関校に進学すれば、大企業に就職ができて一生安泰という時代はもう終わったと考えるべきかもしれません。

今の時代は、進学方法についても、キャリア形成についても、従来の方法があまり役立たなくなりつつあります。コロナウィルスによる社会の変革、ロボットや人工知能による社会の変化が今後予想されます。

それでは、私たちはこのような社会の変革の中で、どのように対処していけばいいのでしょうか。受験はただ、指をくわえて、何もせずに、ウィルスの驚異が過ぎ去るまで、待てばいいのでしょうか。

答えはノーだと私は考えます。今のように家に引きこもらなければならない時代だからこそ、今この危機をチャンスに変えるように動いていくことが大事ではないでしょうか。

今まで外出して塾に通っていた人は、オンラインの塾を検討するのもいいでしょう。外出してつつい遊んでしま

っていた人は、自宅で徹底的に勉強するのもいいでしょう。

勉強だけではなく、自分が好きな道を極めるのもいいでしょう。絵を描くことが好きな人、音楽が好きな人、このような人は、自分の腕に磨きをかけてもいいかもしれません。ただ無為に時間を過ごすのではなく、有り余った時間を有意義で生産性のあることに使いましょう。

このような生き方を考える時、私はアンネの日記を思い出します。アンネの日記とは、かつてドイツ軍がユダヤ人を差別し、強制連行し、大量に虐殺した時代にあって、若く幼いアンネが、恐怖の日々の中でも、希望と人生の喜びを忘れず、力強く生きていく様が、実物の日記から読みと

れる作品です。

コロナウィルスは生物兵器とも言われており、一種の戦争が現代社会で起こっている状態と言えます。このような時代にあっても、私たちは力強く生きていく必要があります。

申し遅れました。

私牛山は、慶應クラスという慶應大学進学対策専門塾を運営するものです。そのほか、逆算合格力+など、東大、京大、一橋、東工大、医学部、早慶を目指す塾も運営しています。このレポートを書いている今年も東京大学合格報

告をもらっています。

私が主催する塾の特徴は、学力を大幅に引き上げるということだけではありません。合格した生徒さんは、当塾について、人生で大切なことを学んだと述べてくれることが少なくありません。そして、当塾の教育について、一種の社会教育だと述べてくれる子もいます。

なぜでしょうか。その理由は、学習スキルに加えて、私は物事の考え方、価値観、生き方論を教えるからです。その上で、いかにして成果を出すのかを教えています。

目標達成手帳というツールを開発し、多くの人の夢実現を助けてきました。私は人生や目標の考え方を多くのクライアントに指導しています。

私が教えるのは、弁護士になりたい人、公認会計士を目指す人、弁理士を目指す人など、難関試験受験生や、難関大学、難関大学大学院受験生です。

私は記憶方法を教えます。

加速学習を教えます。

思考術を教えます。

モチベーションコントロールの技術を教えます。

小論文を教えます。

研究計画書の書き方を教えます。

このようにして、今まで多くの高度専門職受験生や、難関試験受験生をサポートしてきました。

その知見から言えることは、このような社会不安が広がる中で、従来の一般的な難関試験の対策のように、ちょっとだけ何かをがんばるというやり方が、意味をなさなくなる可能性があるということです。

受かってもいいし、受からなくてもよい、ちょっと記念

受験で、受験だけしてみる・・・・という場合、その場のノリで勉強をがんばるのもいいかもしれません。しかし、今後世の中は大きく変わっていくでしょう。その激動の時代の中で、ぬるま湯に使ったような甘い考え方で、力強く生き抜いていくことは難しくなるかもしれません。

かといって、今までのほほんと過ごしてきた人が突然血がにじむような努力をするのは、難しいこともあるでしょう。そんな若者のために、牛山は、適度に力を抜きながら、成果を出すコツもたくさん教えています。

どうすべきなのか？

に対する私なりの答えは、このような時こそ、ピンチをチャンスに変えて、勉強すべしというものです。

外に出ることができないなら、むしろ好都合、この時期に、新しい資格を取得する、あるいは、難関大学に合格するための勉強を進める、このように考えるということもできます。

そしてその際に、単に資格を取る、大学に合格するというだけではなく、加速学習を身につけるということの一つの目標にすることを私は強くお勧めします。

なぜこのように考えるのでしょうか。

その理由の一つは、これからの時代は、どのような資格や能力を取得しても、人工知能やロボットにあなたの仕事にとって変わられるリスクが常にあるからです。

このような時代においては、素早く新しい技術を身につけるためのスキルが最も重要であるという研究発表もあるようです。

加えて大事なことは、今後の社会は、マルチに働くことが普通になるということです。副業もだんだんと当たり前

になってきました。一人が複数の会社に勤めることも当たり前前、フリーランスも当たり前、起業も当たり前の時代になりつつあります。

今の時代は、きばって起業せずとも、プチ起業のようなことをやろうと思えば、たくさん手段はあります。このように、働き方が多様化する時代だからこそ、あなたにとってもっとも必要ないきる力が、加速学習になる可能性があります。もちろん、プログラミングやウェブデザインを学ぶ場合は、そうしてもいいでしょう。

どちらにしても、加速学習は身につけておくにこしたことはありません。

また、必勝のマインドも必要です。どんなに困難な状況にあっても、決してあきらめない心が必要となるでしょう。そして、目の前のことに一生懸命に取り組む生き方がすばらしいと考える必要もあるでしょう。

常にすかして、一生懸命にがんばることなどダサいという考え方もあるようです。豊かな時代においては、このように、見せかけることで、人よりも自分が優位に立つように見せることができたかもしれません。今後の厳しい激動の時代においては、このような振る舞いは時代錯誤となる

でしょう。

もしすべての人が、このような時代にあっても、夢や目標を持ち、必ず達成する気概で、人生を考えるなら、力強く生きていくことができるでしょう。

何年かかっても必ずやり遂げるという強い意志が必要になります。そのために必要なのは、逆算という発想です。夢や目標から逆算して考えた場合に、今自分にとって何をいつまでにやらなければならないのかということが明確である必要があります。

特に若い世代の場合は、この考えが根本的に大事です。中高一貫校は、中学、高校で、素早く学習カリキュラムを終えてしまい、受験に備えます。要は、有名校がやっていることは、早めに理解の作業を終わらせて、暗記をさせているだけです。それ以外には特別なトリックはありません。

言い換えれば、どのような人でも、ふてくされず、すねずに、早めに記憶作業を開始すればそれだけ有利になります。加えて、今後の大学入試は変革が進んでいるため、面接力や、AO 入試突破力、推薦、FIT 入試突破力が有効となります。そして、小論文もできなければなりません。

昔のキャリア教育は、
読み書き、そろばんでした。

少し前のキャリア教育は、
5 科目の詰め込みでした。

今の時代に大学受験に必要な能力は、
詰め込み+小論文&面接&推薦対策です。

つまり、
記憶法や速読術

に加えて

思考術、プレゼン力、面接力、執筆力

などが必要な時代となりつつあります。

それにもかかわらず、世の中の 99%の塾は、このような能力に対して、断片的にしか対応ができません。

学力をつけるだけ、

記憶法を教えるだけ

推薦の対策をするだけ

小論文をやるだけ

面接だけ

など、様々です。

問題の一つは、断片的な学びのために、逆算した対策がワンストップでできないこと、そして、素人にはどこのサービスがいいのか全く分からないということです。

もう一つの問題は、今のような時代には、軟弱な考え方で育っても、時代に対応できない可能性があることです。

どんな時代でも生き抜いていくことができる強い心作
る必要があります。

今後どのように社会が変わっていくのか、予測がつかないというのが多くの人の意見でしょう。どのような時代になっても対応できるように、夢や目標を持ち、逆算して対策を行いましょう。

その際に、加速学習を身につけましょう。

どんな時代にも対応できるように、強いマインドを育てましょう。

以上が私が提唱するコロナ時代の教育対策案です。

いくらかでも参考になれば幸いです。

この混迷の時代を乗り越える教育サービスをご希望の方

へ

逆算合格力+

http://www.skilladviser.com/goukakurixyoku/usiyama_total-supput.html